

# JAEF REPORT

平成25年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

## 【目次】

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| ◆ 第4回理事会・第2回評議員会・第5回理事会を開催 | ◆ 38都道府県の研修会(112件)に講師を派遣 |
| ◆ 平成25年度事業計画説明会を開催         | ◆ 平成25年度 教材提供へ86校から公募    |
| ◆ 平成25年度 JAEF研修会の参加者を募集    | ◆ 平成24年度 提供教材活用状況を報告     |

## 第4回理事会・第2回評議員会・第5回理事会を開催

……5月29日～6月13日

財団運営

理事会及び定時評議員会が5月下旬から6月中旬にかけて相次いで開催され、平成24年度事業報告・決算報告が承認された。また、評議員の一部選任及び改選期に伴う理事・監事の選任が行われた。

まず5月29日に、第4回理事会が芝パークホテルにて開催され、平成24年度事業報告・決算報告及び第2回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月13日に第2回定時評議員会が経団連会館で開催され、平成24年度事業報告・決算報告及び評議員の一部選任並びに改選期に伴う理事・監事の選任が承認された。また、同評議員会終了後に第5回理事会が開催され、代表理事及び業務執行理事等が改めて選定された。

承認された平成24年度事業報告において、財団は「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行った」としている。その内容は、「工業高校を主な対象とした自動車技術教育と、全高校を対象とした交通社会教育に並行して取り組んだ。まず、自動車技術教育においては、教育現場のニーズを踏まえて、基礎教育から応用教育まで幅広く対応できる教材を提供すると共に、専門家による先生方への指導支援などを行った。また、交通社会教育においては、『交通』、『環境』、『交通安全』、『自動車』に関する調査研究を行うと共に、研修会開催、講師派遣、各種情報提供など、先生方の授業展開の支援を行った。」としている。合わせて承認された平成24年度決算報告においては、事業展開の効率化や支出の抑制等に取り組み、当初予算よりも収支が若干改善されたことが報告された。

評議員の一部選任に関しては、2名の評議員（橋本茂氏、栗田博康氏）が退任され、その後任に2名の評議員（吉田量年氏、加藤秀次氏）が選任された。また、理事・監事の選任に関しては、監事の岩武俊廣氏が退任され、その後任に大上工氏が監事に選任された。その他の理事・監事は再任され、小枝至理事長を中心に新たなスタートを切ることになった。



▲第4回理事会の様子



▲第2回定時評議員委員会の様子

なお、平成24年度の事業報告の概要及び理事・監事・評議員の新名簿は、添付別紙をご参照ください。また、今回退任された評議員及び監事の皆様には、財団運営に対するご支援・ご指導に対して、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

## INFORMATION

7～9月予定

- 審査委員会開催、平成25年度教材提供校を決定 8月6日
- 第89回～91回JAEF研修会を開催 7月31日～8月28日
- 22都道府県の研修会(36件)に講師を派遣予定 7月～9月
- 自動車技術教育・交通社会教育イベントを支援 8月

## 平成25年度事業計画説明会を開催

…6月14日

普及啓発

財団は、6月14日、平成25年度事業計画説明会（主に自動車・損保・教育関係専門紙などのマスコミ対象）を、日本自動車会館くるまプラザにおいて開催した。当日は、マスコミおよび関係団体から、10名の参加があった。

財団より、平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画を説明した後、意見交換を行った。参加者からは、提供教材としての電気自動車等の展開可能性や、高校生デザインコンテスト等の他団体との連携、若者に対する調査に関する質問などが寄せられ、有意義な会合となった。



▲事業計画説明会の様子

## 平成25年度JAEF研修会の参加者を募集

…6月～

研修

財団は、平成25年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約5,800校および過去2年間のJAEF研修会参加者約230名へ案内した。本年度は、下表の通り首都圏、中部圏、近畿圏にて年間4回（夏季休暇期間中の8月に3回、11月に1回）開催する。

JAEF研修会は、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成3年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による

講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加された先生方から高い評価を得ている。その結果、昨年度までの先生方の参加者累計は約3,250名を数えている。また同研修会は、今年度も文部科学省、開催都県の教育委員会および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲第85回JAEF研修会・マツダ見学（H24年度）



▲第87回JAEF研修会・講演（H24年度）

### 【平成25年度JAEF研修会開催計画】

実施回	月日と会場	講演テーマ、見学施設、体験内容	募集人員
第89回	7月31日（水） 静岡県駿東郡 トヨタ交通安全センター・モビリティ	（講演） 交通安全のためのスキルとマインド（仮） （体験） テストコースでの危険運転体験	30名
第90回	8月20日（火） 愛知県長久手市 トヨタ博物館	（講演） 豊田市低炭素社会システム実証と都市交通システム「ハーモ」について （見学） トヨタ博物館とクラシックカー走行 とよたエコフルタウン（豊田市低炭素社会システム実証施設） （体験） 超小型モビリティ（EV）の試乗	50名
第91回	8月28日（水） 滋賀県蒲生郡 ダイハツ工業（株） 滋賀テクニカルセンター	（講演） 軽自動車技術の歴史と新技術（スマートアシスト含む） （体験） 衝突回避支援システム 誤発進抑制制御機能	40名
第92回	11月22日（金） 東京都江東区 有明フシントンホテル	（講演） ～人間主体のASVとITS～ 「ぶつからないクルマに見る先進安全技術」 （見学） 第43回東京モーターショー見学	100名

## 38都道府県の研修会(112件)に講師を派遣

・・・4月～6月

研修

財団は、自動車の整備技術やハイブリッド技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー(8種類)および「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修メニュー(6種類)を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。今年度4月～6月は、38都道府県(112件)の研修会に専門の講師を派遣した(別表参照)。これらの研修会の受講者累計は、約50,600名に上った。

112件の内訳は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣の要請が110件(「危険予知による交通安全」68件、「クルマ・自転車・人がつくる道路と安全」22件、「自転車と交通安全」12件、「交通事故とその責任」8件)、技術研修会は、2件(「トヨタハ

イブリット車について」が1件、「日産電気自動車について」が1件)であった。「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部および日本損害保険協会支部に協力いただいた。また、技術研修会の講師は、ネットヨタ中国及び日産プリンス福岡販売にご協力をいただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

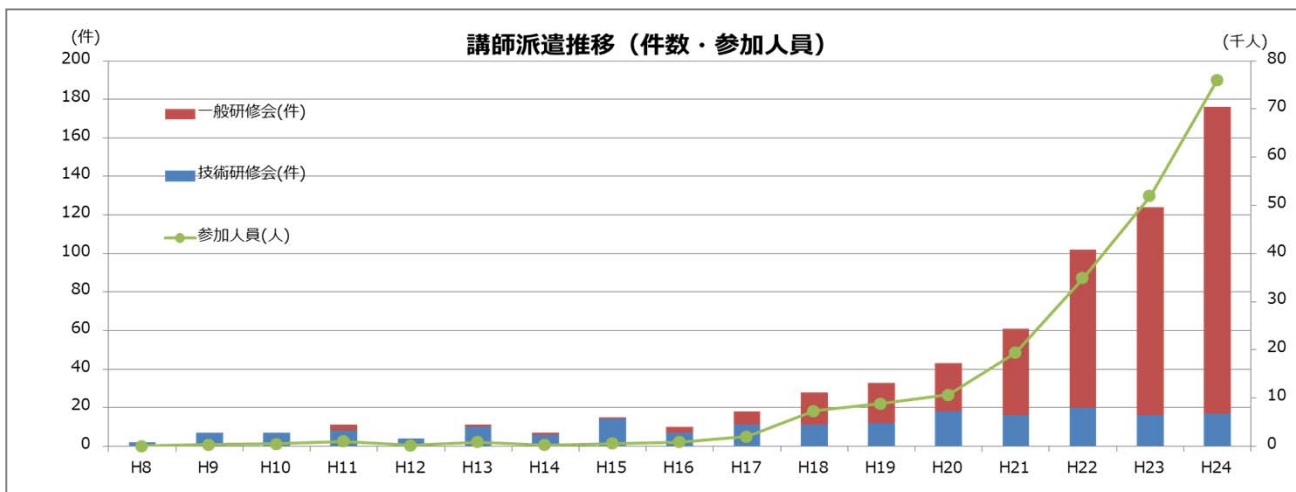


▲岩手県立花巻清風支援学校での交通安全研修会



▲岐阜県立多治見北高等学校での交通安全研修会

### 【講師派遣実績(平成8年度～平成24年度)】



	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002

## 平成25年度教材提供へ86校から応募

・・・ 6月

技術教育

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象18県（※記載）で自動車技術教育を実施している270校へ6月初めに応募要項を送付した。締切の6月28日までに86校から応募があり、応募率は31.9%であった。最終的な提供校および支援内容は、8月6日に開催する審査委員会（木村寛治委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

3位は実習用工具セット(8校)であった。(昨年は2位がエンジンベンチ、3位がビデオ教材)。

なお本年度も、自動車技術教育の維持・向上を図るべく、学校の希望も踏まえながら前年同様27教材提供メニューではあるが、一部見直しを行い、基礎から上級教育用教材まで広く提供メニューを用意し対象校へ案内を行った。

### <応募状況>

今年度の応募校数は86校で3年前の63校を23校上回った。今年度応募校の内、以前に提供したことのある学校からの応募が69校に対して、初めて応募してきた学校が17校(19.8%)あった。(昨年15%・昨年12%) 応募率のアップは財団の支援事業が広く現場の先生に認知されたことと教材提供に対するニーズがまだ根強くあることが窺われる。

### 【25年度 公募対象地域と応募校数】

秋田県(7)山形県(3)群馬県(4)山梨県(2)新潟県(1)長野県(6)  
徳島県(4)香川県(5)愛媛県(4)高知県(5)  
福岡県(11)佐賀県(4)長崎県(4)熊本県(4)大分県(6)  
宮崎県(4)鹿児島県(6)沖縄県(6)

( )内の数字は県別の応募校数

計18県86校

### <教材別応募状況>

各学校は、教材提供メニューの中から第3希望まで選定して応募することとなっているが、第1希望の応募状況を見ると、分解組立用汎用エンジンが昨年同様1位で19校と22%を占める人気教材であった。2位は動く掛図教材4サイクル・2サイクルエンジン(11校)

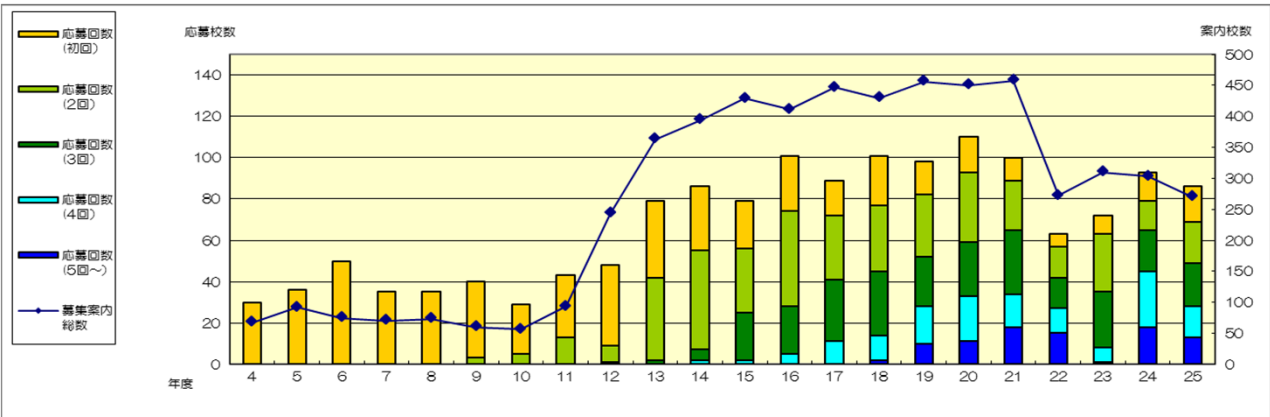


▲分解組立用エンジン



▲エンジンベンチ

### 【応募校数の推移(平成4年度～平成25年度)】



年度(平成)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
応募校数	30	36	50	35	35	40	29	34	49	84	86	79	101	89	101	97	110	100	63	72	93	86

## 平成24年度提供教材活用状況を報告

・・・ 5月21日

技術教育

平成23年度に教材を提供した76校に対して、平成24年度の教材活用状況に関する調査票を2月に送付し、全校から回答を得て、このたび「平成24年度教材活用報告書」としてまとめた。技術教育事業では、学校に対するフォローアップ活動として、教材提供した翌年の年度始に活用計画書を、年度末に活用報告書を提出してもらい、今後の教材提供活動の参考としているものである。今回の活用報告書にも教材提供への感謝や、教育現場での活用実態等が記載されており、先生方の意見・要望を取り入れ教材支援メニューの充実につなげていく予定である。



▲エンジン分解組立実習の様子